

2024年6月20日

令和 5 年度政務活動費に係る収支報告書

青森県議会議長 丸井 裕 殿

青森県議会議員 吉俣 洋

1 収入

(政務活動費交付額) 3,720,000 円

2 支出

経 費	金額(円)	主 な 内 容
調査研究費	1,731,737	日本共産党会派共通経費
研修費	60,400	参加費
広聴広報費	1,052,726	活動報告印刷代
要請陳情等活動費	0	
会議費	5,680	通行料金
資料作成費	0	
資料購入費	77,204	年間購読料、図書購入費、文書複写料
事務所費	0	
事務費	0	
人件費	0	
合 計	2,927,747	

3 差引

(収入額－支出額) 792,253 円

費目ごとの^{あん}按分率一覧

議員名

吉俣 洋

1 事務費

(1) 固定電話・ファクシミリ(番号ごとに記載)

電話 ファクシミリ (番号 - -) 自宅設置 事務所設置

政務活動以外にも使用 後援会活動 実態による場合

政務活動専用 政党活動 通話時間

私的活動 その他 []

実態によることが著しく困難な場合

(2) ネット回線使用料・プロバイダ料

契約先 () 自宅設置 事務所設置

政務活動以外にも使用 後援会活動 実態による場合

政務活動専用 政党活動 接続時間

私的活動 その他 []

実態によることが著しく困難な場合

(3) 携帯電話 (番号 - -)

政務活動以外にも使用 後援会活動 実態による場合

政務活動専用 政党活動 通話時間

私的活動 その他 []

実態によることが著しく困難な場合

(4) 情報端末(タブレット等)

政務活動以外にも使用 後援会活動 実態による場合

政務活動専用 政党活動 通信時間

私的活動 その他 []

実態によることが著しく困難な場合

(5) 消耗品、備品等

政務活動以外にも使用 後援会活動 実態による場合

政務活動専用 政党活動 使用頻度

私的活動 その他 []

実態によることが著しく困難な場合

2 広聴広報費

(1) 広報紙の作成、発行等に要する経費

政務活動以外の部分を含む 後援会活動 紙面割合による場合

政務活動のみ 政党活動 紙面割合によることが著しく困難な場合

(2) ホームページの作成等に要する経費

政務活動以外の部分を含む 後援会活動 面積割合による場合

政務活動のみ 政党活動 面積割合によることが著しく困難な場合

第3号様式(第2条関係)

(その2)県内における宿泊を伴わない政務活動用

政務活動実績報告書

議員名 吉俣 洋

経 費		調査研究費		
年 月 日	場 所	訪 問 先 等	概 要	整理番号
05. 04. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(4月分)	4
05. 05. 19	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(5月分)	6
05. 06. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(6月分)	8
05. 07. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(7月分)	11
05. 08. 21	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(8月分)	12
05. 09. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(9月分)	15
05. 10. 20	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(10月分)	18
05. 11. 21	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(11月分)	48
05. 12. 21	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(12月分)	52
06. 01. 19	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(1月分)	63
06. 02. 19	青森市長島	日本共産党会派	所属会派の事務用品の購入等に要する経費に充てるための共通経費(2月分)	78

支 出 証 明 書

NO. 1

経 費		研修費				
整理 番号	支出年月日	支出額	支出先	品 名	事業名、使途及び内容	備考
33	05. 10. 21	800	0	ガソリン代	青森県農民連主催の学習講演会に参加 05. 10. 21 青森市浪岡	40km × 20円
40	05. 11. 04	3,520	0	ガソリン代	医療的ケア児(者)パネル展・交流会に参加 05. 11. 04 八戸市三日町	176km × 20円
53	05. 12. 21	1,380	0	ガソリン代	三沢高等学校第14回モスマットを参観 05. 12. 21 三沢市松園町	69km × 20円
計		5,700				

上記のとおり相違ないことを証明します。

青森県議会議員

吉俣 洋

政務活動実績報告書

議員名 吉俣 洋

事業名	北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録2周年記念東京フォーラム及び地方議会議員政策セミナーに参加			
経費	研修費			
実施年月日	06.01.28~1.30			
場所	東京都千代田区			
同行議員	なし			
目的	北海道・北東北の縄文遺跡群の値打ちを生かす道を考えるうえで、世界遺産登録2周年の節目にその学術的到達がどうなっているのかを学び、今後の課題を探ることを目的とする。また、知事が変わり、核燃料物質取扱税の引き上げなど歳入の側面とともに、子育て支援の拡充など歳出での新たな施策が予想されるなか、県税のあり方にかかわる変化を見極める地方税制上の基礎的な力をつけることを目的とする。さらに介護報酬の改定により、「保険あって介護なし」と言われる事態が加速する危険性があるもと、介護保険のあり方と課題について学ぶことを目的とする。			
日程	1月28日 自宅～(自家用車)～青森市～(JR)～東京・有楽町ホールで開催された「北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録2周年記念東京フォーラム」に参加～東京都品川区(宿泊) 1月29日 日本教育会館で行われた地方議会議員政策セミナーに参加～東京都品川区(宿泊) 1月30日 東京～(JR)～福島(議会運営委員会視察に参加)			
訪問内容及び内容	1月28日(日)北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録2周年記念東京フォーラム 東京・有楽町朝日ホールで行われた、縄文遺跡群世界遺産本部が主催の「縄文の始まりと終わり」と題するフォーラムに参加。東京大学根岸洋准教授の講演「縄文の始まりと終わり」の後、外ヶ浜町教育委員会の駒田透氏による報告があり、最後に根岸氏、阿部氏に加え大阪府立弥生文化博物館館長の欄宣佳男氏をパネルストに三内丸山遺跡センター所長の岡田康博氏をコーディネーターにした意見交換が行われた。いずれも最新の研究成果が存分に披露されたと思われるが大変学ばされるものだった。縄文に関心を持つ首都圏層の人口の多さを実感したわけだが、世界遺産登録ということがこうしたファン層の心をつかむことになったと思う。また全体を通じて「新たな遺跡発掘により構成遺産が増えることがあっていいと思う」という趣旨の発言があった。考古学的見地を深めながら、現代意義が見つかるように県として研究を支える大切さを実感してきた。 1月29日(月)地方議会議員政策セミナー 自治体問題研究所主催のセミナーに参加。2つの講義を受けてきた。①森裕之氏による「地方財政対策を中心とした2024年度政府予算案の特徴」地方財政の全体像から個別の問題までわかりやすく学ぶことができた。自治体は行政的役割が大きいにも関わらず自前の財源が少ないという特徴を持つ。したがって国から地方自治体へのお金の流れを理解すること、すなわち地方自治税の仕組みを理解することが大事だということを印象に持った。議員活動上、様々な財源問題は直面するが講義の中では「自治体のルールは「赤字にしない」ことだけ。そこを守れば、どうい財政出動をするのも選択の問題となるのだから必要な提起をちゃんとやってほしい」という趣旨の話があった。政策活動上、極めて大事な姿勢だと感じた。2024年度政府予算との関係では軍事費の突出が強調されたが、ここは改めて予算を考えるうえでいびつさを生んでいる分野として認識を新たにしたい。②日下部雅喜氏による「介護保険制度の動向と自治体における課題」市町村介護保険事業計画のポイントについての解説が中心で市町村の事業に関する事が多くなかなか難しかった。ただ「今、現場に人がいない。特にヘルパーは足りない」「最低賃金は上がっているのに介護報酬は上がらない」という実態告発はよくわかるものだった。このままの推移をたどると、介護保険制度は「保険あって介護なし」という事態になってしまう危険性を強く感じてきた。公費による下支えがどうしても必要で、この点でも国の予算が軍事費偏重となっている状況の改善は急がれると感じた。いずれの調査においても、さらに内容を深め議会論争に生かしていきたい。			
経内費の等	支出内容	政務活動費 充当額(円)	主な品名	整理番号
	交通費	15,270	JR切符代	71
	宿泊費	11,520	宿泊代	72
	受講料	10,600	セミナー参加費	74
	その他	1,840	駐車料金	73
合計額	39,230			

同行議員：なし

目的：

北海道・北東北の縄文遺跡群の値打ちを生かす道を考えるうえで、世界遺産登録 2 周年の節目にその学術的到達がどうなっているのかを学び今後の課題を探ることを目的とする。

また、知事がかわり、核燃料物質取扱税の引き上げなど歳入の側面とともに、子育て支援の拡充など歳出での新たな施策が予想されるなか、県税のあり方にかかわる変化を見極める地方税制上の基礎的な力をつけることを目的とする。

さらに介護報酬の改定により、「保険あって介護なし」と言われる事態が加速する危険性があるもと、介護保険のあり方と課題について学ぶことを目的とする。

日程：

2024 年 1 月 28 日～29 日

28 日：自宅→新青森駅→東京・有楽町朝日ホールで開催された「北海道・北東北の縄文遺跡群 世界遺産登録 2 周年記念 東京フォーラム」に参加

29 日：東京・喜山倶楽部「平安の間」で開催された「地方議会議員政策セミナー」に参加

30 日：東京→福島（議会運営委員会の視察にそのまま参加）

訪問先及び内容等：

2024 年 1 月 28 日 「世界遺産登録 2 周年記念 東京フォーラム」

縄文遺跡群世界遺産本部が主催し、「縄文の始まりと終わり」と題するフォーラムに参加してきた。

東京大学の根岸洋准教授の講演（「縄文時代の始まりと終わり」）のあと、外ヶ浜町教育委員会の駒田透氏による報告（「縄文の始まりを掘る——大平山元遺跡」）、北海道環境生活部文化局の阿部千春氏（「縄文の村を掘る——垣ノ島遺跡」）があり、最後に根岸氏、阿部氏に加え、大阪府立弥生文化博物館長の禰亘田佳男氏をパネリストに、三内丸山遺跡センター所長の岡田康博氏をコーディネータ

にした意見交換が行われた。いずれも最新の研究成果が存分に披露されたと思われるが、大変学ばされるものだった。

根岸氏は、世界やアジアの考古学的知見を踏まえ、縄文時代の普遍性と特殊性について論じたが、そのことを考えるアプローチとして、「縄文時代の始まりと終わり」というテーマは興味深いものだった。すなわち、「縄文の始まり」というと、最終氷期にさかのぼり土器が出現することは東アジア全体に共通するが、そのなかで栽培穀物も家畜もない縄文文化が出現したことの意味をつかむ必要性を感じた。またこの話のなかで、東北町の長者長久保遺跡の発掘調査を行い始めたことが紹介され、「縄文の始まり」の解明という点でこの発掘の意味が強調されたことは、県としても認識しておく必要があると思う。発掘調査の推移を見守りたい。

一口に「縄文時代」といっても、地域によってさまざまな色合いがあることに留意が必要なことも学んだ。特にそれが必要なのが、「縄文の終わり」を考える際に、東日本で縄文晩期の時、西日本で弥生が同時並行しているという指摘だった。亀ヶ岡の文化が全国にひろがっているということも紹介され、亀ヶ岡遺跡の重要性も学ばされた。

外ヶ浜町の大平山元遺跡の重要性を知る機会ともなった。

全体を通じて、まだ未解明のものが多い中で、アジアの中に位置づけて考古学的見地が深められていることが語られたことは大事だと思った。また意見交換のなかでは、1万年続いたとされる縄文時代に、組織的な殺人行為=戦争がない時代だったことが強調されたことは大いに確信にしたい。

フォーラムの参加者が多いことにはびっくりした。縄文に関心をもつ首都圏の人口の多さを実感したわけだが、世界遺産登録ということが、こうしたファン層の心をつかむことになったと思う。また全体を通じて、「新たな遺跡発掘により、構成遺産が増えることもあっていいと思う」という趣旨の発言があった。考古学的見地を深めながら、現代的意義が見つかるように、県として研究を支える大切さを実感してきた。

2024年1月29日 「地方議会議員政策セミナー」

自治体問題研究所による開催。2つの講義を受けてきた。

① 森裕之氏（立命館大学）による「地方財政対策を中心とした2024年度政府

予算案の特徴」

地方財政の全体像から個別の問題まで、分かりやすく学ぶことができた。

自治体は行政的役割が大きいにも関わらず、自前の財源が少ないという特徴をもつ。したがって、国から地方自治体へのお金の流れを理解すること、すなわち地方交付税の仕組みを理解することが大事だということを印象にもった。議員活動上、さまざまな財源問題は直面するが、講義の中では「自治体の唯一のルールは『赤字にしない』ことだけ。そこを守れば、どういう財政出動をするのも選択の問題となるのだから、必要な提起をちゃんとやってほしい」という趣旨の話があった。政策活動上、極めて大事な姿勢だと感じた。2024年度政府予算との関係では、軍事費の突出が強調されたが、ここは改めて、予算を考えるうえでいびつさを生んでいる分野として認識を新たにしたい。

② 日下部雅喜氏（大阪社会保障推進協議会）による「介護保険制度の動向と自治体における課題」

市町村介護保険事業計画のポイントについての解説が中心で、市町村の事業に関することが多く、なかなか難しかった。ただ「今、現場に人がいない。特にヘルパーは足りない」「最低賃金は上がっているのに介護報酬はあがらない」という実態告発はよく分かるものだった。

東京都が独自支援に踏み出していることが紹介されたことをはじめ、介護保険制度の改善に向けた方向性も提示された。

このままの推移をたどると、介護保険制度は「保険あって介護なし」という事態になってしまう危険性を強く感じてきた。公費による下支えがどうしても必要で、この点でも国の予算が軍事費偏重となっている状況の改善は急がれると感じた。

いずれの調査についても、さらに内容を深め、議会論戦にいかしていきたい。

以上

支 出 証 明 書

NO. 1

経 費		会議費				
整理 番号	支出年月日	支出額	支出先	品 名	事業名、使途及び内容	備考
35	05. 11. 02	3,520	0	ガソリン代	青森県私学振興大会に来賓として出席 05. 11. 02 八戸市柏崎	176km×20円
計		3,520				

上記のとおり相違ないことを証明します。

青森県議会議員

吉俣 洋

領収書等の写し集計表

経 費	会議費		支出先	品名	備考	
	整理番号	支出年月日				支出額
	36	05. 11. 02	860	青森県道路公社	通行料金	八戸市柏崎
	37	05. 11. 02	220	青森県道路公社	通行料金	八戸市柏崎
	38	05. 11. 02	220	青森県道路公社	通行料金	八戸市柏崎
	39	05. 11. 02	860	青森県道路公社	通行料金	八戸市柏崎
合 計			2,160			

